

★ JICA 大阪デスクより ★

■ 開発教育・国際教育セミナー 入門・プログラム体験編

【02】 地方自治体における多文化共生の現状と今後

- 地方自治体における多文化共生の推進について
総務省自治行政局国際室長 伊藤 正志氏
- 松原市における外国籍住民支援への取り組み
松原市市民協働部市民協働課 佐藤 恭氏

【03】 お知らせ

- 外国人のための一日相談会 《OFIX 共催事業》

【04】 Topics

- ◆ 2016 年度 JICA ボランティア秋募集
- ◆ 平成 28 年度 大阪府災害時多言語支援センター
設置・運営訓練実施！（予定）

◇ 大阪府外国人情報コーナー

◇ 編集後記

【01】 事業報告

OFIX では、主要事業として、災害時の外国人支援体制の強化に取り組んでいます。

今号では、その一環として実施した大阪府と京都府国際センター、OFIX の共催による熊本地震時の外国人支援の実績と課題に関する講演会を紹介します。その他、各分野の事業についても報告します。

講演会

「災害時外国人支援について考える 熊本地震における実績と課題」

8 月 30 日（火）、熊本地震直後から災害多言語支援センター（以下、センター）と避難所を運営された（一財）熊本市国際交流振興事業団（kif）の八木事務局長と、センターでの支援活動に参加された（公財）京都府国際センター（KPIC）の近藤事業課長を講師にお迎えし、講演会を開催しました。

kif では、kif が指定管理している熊本市国際交流会館での避難所運営も担うこととなりましたが、地震直後から避難所開設に至るまでの経緯や、避難所運営によりマンパワー不足となりセンター運営が難しくなったこと、また外部への支援要請等についてお話していただきました。

KPIC からは、支援要請があってから実際に活動に参加するまでの経緯や、今後のセンター運営における改善点、また KPIC が平時から取り組んでいる関連事業についてご紹介いただきました。

参加者である府内市町村の国際化担当部局や地域国際交流協会の方からは、避難所やセンターの運営、他団体との連携等についての質問があり、活動時に多くの課題がある様子がうかがわれました。

OFIX では、課題解決に向けて、今後も市町村・国際交流協会等との連携を深めながら、災害時の外国人支援体制の強化を目指し、取り組みを進めていきます。

***** ★ ボランティア研修 ★ *****

〇〇 コミュニティ通訳・翻訳ボランティア研修 〇〇

■ 河内長野市国際交流協会・OFIX 共催

「たすけあい広場 -知ろう、やってみよう

コミュニティ通訳・翻訳-

実施日：8月27日（土）

参加者：19名

前半は講師の（特活）多言語センター FACIL 理事長 吉富志津代氏から、これまでの経験をもとに、コミュニティ通訳・翻訳に携わる際のチェックポイントをお話しいただきました。特に「自分のコミュニティ通訳・翻訳者としての能力を、過大あるいは過小評価しない」との言葉が印象的で、すでに活動中のボランティアの方は、大きくうなずいていました。

後半のワークショップでは、やさしい日本語を使って、多くの情報量の中から特に伝えたい要点をまとめる練習をしました。

〇〇 災害時通訳・翻訳ボランティア研修 〇〇

■ 和泉市・和泉市国際交流協会・OFIX 共催（防災・災害時訓練）

「災害発生時の外国人サポート」

実施日：9月15日（木）

参加者：50名

第1部では、和泉市消防本部・和泉市消防署による救急救命講習の後、心肺蘇生法やAED使用法の実技に挑戦し、第2部では「災害発生時のとっさの一言」と題した災害時や緊急通報時を想定したフレーズ（会話文）を英語、中国語、韓国・朝鮮語の講師から教わりました。

1、2部ともに参加者から、講師に対して多くの質問があり、時間が過ぎるのを忘れるほどの熱気でした。「次回はもっと時間をかけて、詳しく学びたい。」との声も聞かれました。

■ OFIX 主催研修〈応用編〉

実施日：9月3日（土）

参加者：16名

今回の研修は、初めて、津波災害を体感できる「津波・高潮ステーション」を会場に行いました。

6月の〈基礎編〉では、災害時通訳・翻訳ボランティア制度やその活動等についての講義が中心でしたが、今回の〈応用編〉は、外国人の方への防災啓発活動を想定し、施設見学時の実地通訳に挑戦しました。

参加者はグループに分かれ、施設ガイドの説明内容を交代で通訳しました。これまで知らなかった津波・高潮のことや、慣れない災害用語に悪戦苦闘しながらも、笑顔の絶えない研修になりました。

★ グローバル人材の育成 ★

- (公財) 大遊協国際交流・援助・研究協会主催
第5回 在阪領事館との意見交換会

実施日：7月21日(木)
参加者：38名

大遊協財団関係者、財団奨学生そして奨学生の出身国の領事の方々が、留学生支援についてグループに分かれ意見交換を行いました。奨学生からは、就職活動などで困ったこと、充実した留学生生活、また将来の夢などについての話があり、大遊協財団や関係者等が今後どのような留学生支援ができるかなどについて、活発に意見交換しました。奨学生にとっても、貴重なアドバイスと励ましをいただいた有意義な会となりました。

- 平成28年度大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業
(安藤プログラム)

今年度24回目となる安藤プログラムでは、9月23日にアジア8か国から8名の研修生を迎え、現在研修を実施しています。来阪後、大阪府竹内副知事表敬訪問や大阪府研修、近畿大学での建築ワークショップ、本福寺(淡路島)や直島等の安藤忠雄氏設計建築物の視察や日本人家庭でのホームステイをとおして、日本の建築や芸術、文化について学びを深めています。研修の軸となる府内建設会社での実地研修等のプログラムを経て、10月20日に帰国予定です。研修の詳細については次号でお伝えします！

★ 外国人相談 ★

- 堺市・OFIX 共催 外国人のための無料相談サービス
実施日：7月12日(火)
参加者：18名(相談件数24件)

堺市在住の外国人の方等から、在留資格、年金等の相談があり、専門相談員として弁護士、行政書士、社会保険労務士、保健師が対応しました。

- 第1回大阪府外国人向け行政情報提供窓口相談員ネットワーク会議
実施日：7月27日(水)
出席者：22名

前半の講義では、外国人を含む住民からの消費生活相談の事例紹介があり、後半の意見交換会では、「多言語支援のための取り組みについて」というテーマで話し合い、相談員同士のさらなる連携強化につながる会議となりました。

★ 留学生支援 ★

- 高等教育機関留学生担当者防災ワークショップ
実施日：9月6日(火)
参加者：14名

(一財)自治体国際化協会地域国際化推進アドバイザーの相談員杉田理恵氏(東村山市市民部)から、同市の在住外国人への防災に関する取り組みや、留学生への防災対策に関する大学の先進事例等についてご講演いただきました。その後のワークショップでは、参加者同士で、「大規模災害時にどんな支援ができるのか」「課題を解決するにはどうすればよいのか」について、意見交換と発表を行い、課題とその解決方法を参加者全体で共有したことで、外国人を支援する側同士の連携の大切さを改めて確認しました。

■ 留学生のキャリアカウンセリング

実施日：9月26日(月)

参加者：25名

OFIXでは、来春卒業予定の日本人及び外国人留学生等を対象にした合同企業説明会「OSAKA ジョブフェア」(OFIX共催)の会場内に相談ブースを設け、「留学生のキャリアカウンセリング」を実施しました。ジョブフェアには、近畿圏内の優良中小企業97社が出展、720名(内留学生148名)が来場し、OFIX相談ブースに来られた留学生からは「日本の企業に就職するための就活の方法」や「希望職種に適合する在留資格」等について相談を受けました。

■ 大阪府堺留学生会館 オリオン寮生交流会(ポットラックパーティ)

7月24日(日)、出身国の料理を持ち寄る形式のポットラックパーティを開催し、20名の寮生が参加しました。

この交流会は、寮生同士が親睦を深めることを目的に、チューターが自主的に企画したものです。寮生が作った4か国の料理が紹介され、食の異文化を楽しみました。

今後も、寮生達の留学生活の思い出のひとつとなるような企画に取り組んでいきます。

★ JICA大阪デスクより ★

■ 開発教育・国際教育セミナー 入門・プログラム体験編

実施日：8月4日(木)

参加者：151名

本セミナーでは、「アクティブ・ラーニング」を取り入れた講演や、国際教育・開発教育分野で活躍するNGO・NPO等によるワークショップを実施しました。

様々な切り口で取り組むことができる国際教育や学習者主体の参加型学習の情報や手法を提供し、参加者の方から好評を得て閉幕しました。

OFIXは、共催団体として、「使わな損ソン!共催団体お役立ち情報」という分科会で、取組事業の説明や、OFIX国際交流員による国際理解教育の模擬授業を実施しました。

【02】地方自治体における多文化共生の現状と今後

大阪府には、府民の約2%あたる約21万人(平成27年末)の外国人の

方が暮らしており、増加傾向にあります。

在住外国人の方にとっては、生活に密着した居住地の多文化共生への理解・外国人支援は、日々の快適な生活に大きく影響します。

今回、地域の国際化の推進のために幅広い施策に取り組む総務省自治行政局国際室長と、地域の外国籍住民の支援に積極的に取り組む松原市市民協働部市民協働課の方に寄稿していただきました。

● 地方自治体における多文化共生の推進について

総務省自治行政局国際室長 伊藤 正志氏

総務省において、「地域における多文化共生推進プラン」を策定してから、本年度で10年が経過した。この間、多文化共生施策を巡る状況が一定の変化を見せるとともに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催等を控え、同施策に対するニーズがより一層強まるものと予想される。ここでは、私見を交えながら、多文化共生に関する現状と課題について触れてみたい。

10年前と比べ大きな変化は、在留外国人の多国籍化及び高齢化が挙げられる。これには、経済情勢の変化をはじめとする様々な理由が考えられるが、更なる多言語化等の動きが予想される。また、在留外国人の数自体も増加傾向が続くものと考えられる。

国においても、今後の経済財政運営等の基本方針を示す「骨太の方針2016」等において「外国人材の活用」を掲げるとともに、関連施策について関係省庁間で横断的な取り組みが進められた。

そのような中、多文化共生施策の第一線の担い手である地方自治体においても、多文化共生に関する指針・計画を策定する団体が増加し、同施策の重要性に関する認識が広がっているものと感じられる。その一方で、庁内の多文化共生担当部局と各部局間の連携等による同施策の推進体制づくりは、不断の見直しが求められるのではないだろうか。

このような状況の下、総務省では、本年2月に「多文化共生事例集作成ワーキンググループ」を設け、全国各地における様々な優良な取り組みをベースに、本年度内に事例集を取りまとめることとしている。また、近年多発する大規模災害の状況に鑑み、9月には「情報難民ゼロプロジェクト」を立ち上げ、情報が届きにくい外国人をはじめとする方々に、災害時に必要な情報が確実に届けられるよう、情報伝達の環境整備を図ることとしている。これらの施策が、地域における多文化共生推進の一助となれば幸いであるとともに、今後も、施策を「供給」する立場からだけでなく、施策の「需要」側である外国人の方々の目線に立った事業展開を心がけていきたいと考えている。

● 松原市における外国籍住民支援への取り組み

松原市市民協働部市民協働課 佐藤 恭氏

松原市は、人口の1%にあたる1,272人と南河内地区で外国籍住民の方が最も多く住む街です。市では「松原市人権尊重のまちづくり条例」や「松原市第4次総合計画」に基づき、地域国際化支援の取り組みを進めています。

具体的には、2003年より相談窓口を開設し、通訳・翻訳のサポートを行っています。現在、人権相談の窓口において、外国人の方の相談に、

8か国語（英語・中国語・韓国朝鮮語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・タガログ語・タイ語）で対応しています（予約制）。

相談内容は教育・医療に係るものが多数で、最近は高齢化やマイナンバーなどの新制度に関する案件が増えています。松原市の外国籍住民は、年々多国籍化が進んでおり、いわゆる「マイナー言語」への対応が今後の課題となっています。

もう一つの取り組みは、外国籍住民が生活に必要な日本語を学べ、日本語に不慣れでも安心できる居場所としての日本語教室の開設です。特に「国際広場もめん」は、1996年の開設以来、企画運営を市と市民ボランティアの協働で行っており、簡単な日本語で学習者と市民ボランティアが気軽に学びあう、地域の異文化交流の場となっています。必要な場合は市役所の相談窓口につなげるなど、市開設の強みを活かした教室です。

外国籍住民の方が、日本語を学ぶことにより、将来的に地域の一員として自立し、安心して暮らせる松原市を目指し、今後も取り組みを推進していきます。

外国籍住民相談窓口＋通訳・翻訳サービス

⇒<http://www.city.matsubara.osaka.jp/index.cfm/10,0,30,137,html>

日本語よみかき教室

⇒<http://www.city.matsubara.osaka.jp/index.cfm/10,28570,56,384,html>

【03】お知らせ

● 外国人のための一日相談会 《OFIX 共催事業》

外国人住民の方が身近な所で相談が受けられるように、OFIX では市町村等と共催で、一日相談会を実施しています。

お気軽に利用ください。

◆11月13日（日）9時-12時「外国人相談コーナー」

忠岡町民グラウンド（忠岡町商工カーニバル特設会場）

（英語、中国語、インドネシア語）

生活一般に関する相談に応じます。

忠岡町商工カーニバルと同時開催！

◆11月25日（金）17時30分-21時「外国人のための相談会」

四條畷市市民総合センター

（英語、中国語、ベトナム語、スペイン語、フィリピン語）

専門相談員（行政書士、社会保険労務士等）が、在留資格、

労働、年金、保険などの相談に応じます。

◆12月18日（日）10時-16時「外国人一日相談会 in 大東

（国際交流フェスタ 2016）」大東市立生涯学習センター「アクロス」

（英語、中国語、ベトナム語）

専門相談員（行政書士、社会保険労務士、弁護士）が相談に応じます。

国際交流フェスタと同時開催！

【04】Topics

◆ 2016 年度 JICA ボランティア秋募集

■ 募集期間

9 月 30 日（金）-11 月 4 日（金）〔必着〕

関西での説明会はこちら

<http://www.jica.go.jp/volunteer/seminar/kansai/>

■ 応募資格

- ・ 青年海外協力隊、日系社会青年ボランティア
20 歳から 39 歳の日本国籍を持つ方

詳しくはこちら

<http://www.jica.go.jp/volunteer/application/seinen/>

- ・ シニア海外ボランティア、日系社会シニア・ボランティア
40 歳から満 69 歳の日本国籍を持つ方

詳しくはこちら

<http://www.jica.go.jp/volunteer/application/senior/>

◆ 平成 28 年度 大阪府災害時多言語支援センター

設置・運営訓練実施！（予定）

大阪府と OFIX は、発災時に多言語情報発信等の拠点となる「大阪府災害時多言語支援センター」を迅速に設置・運営するための訓練を平成 29 年 1 月に実施する予定です。

第 1 部では、基礎研修として、センターの役割と運営について学びます（予定）。

第 2 部では、模擬センターを設置し、情報の整理、選別、多言語化、ツールを使っての情報発信、またセンターの重要な役割のひとつである外国人電話相談を実地訓練します（予定）。

本訓練を通じて、多言語情報提供の流れを再確認し、今後の体制構築の礎としていきます。

【大阪府外国人情報コーナー】(OFIX 内)

外国人のための無料相談窓口です。

(在留資格、労働、医療、福祉、生活などの相談)

相談時間 9 時-17 時 30 分(月-金 ※祝日除く)

休憩(12 時 15 分-13 時)

専用電話 06-6941-2297

相談言語 英語、韓国・朝鮮語、中国語、ポルトガル語

スペイン語、タイ語、フィリピン語、ベトナム語

E-mail jouhou-c@ofix.or.jp

編集後記

私の住む市では、10 月下旬に秋祭りが開催されますが、市内在住・在勤外国人の方を対象に、おみこしの担ぎ手を募集していました。募集チラシでは、当日の服装や提供食事（お寿司）について、やさし

